

話すこと・聞くこと

第6学年

話し手の意図をとらえながら、自分の考えを明確にして助言すること

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られますか？～

話し手の意図をとらえながら聞き、話の展開に沿って、助言をすることができない。

スマホは持たないほうが良いと思います。ゲームやメールで時間がとられるからです。

他の理由についても付け足したほうがいいよ。

スマホを持って良いと思います。わからないことも簡単に調べられて便利だからです。

スマホで調べても身に付かないのではないですか。

確かに、これはいい質問だね。

聞く観点があきりしていないため、的確な助言ができていない

話し手の意図をとらえ、自分の考えを明確にして、助言ができていない

実践の概要

単元名

立場を明確にして主張し合い、考えを広げる討論をしよう

『学級討論会をしよう』光村図書

目標 評価をしながら討論を聞き、助言をすることができる。

内容 ・聞くための観点と適切な助言とはどのようなものなのかを話し合っ

- ・1回目の討論会を行う。
- ・観点に沿って評価をし、助言をすることができるように考えをまとめる。
- ・助言を受けて2回目の討論会をする。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	立場を明確にして主張し合い、考えを広げる討論をしよう	話し手の意図をとらえながら聞き、話の展開に沿って、助言をすることができない。
第5学年	田鶴野小を良くするために提案書を書こう	話し合う場面で、異なる意見を一つにまとめられない。
第4学年	大事なことを落とさない聞き取りメモ名人になろう	話し手の伝えたい大事なことを聞き落とさず、工夫してメモすることができない。
第3学年	幼稚園さんに学校生活の様子をつたえよう	互いの考えの共通点・相違点を的確に見つけられないために、意見がまとまらない。
第2学年	つたえたいことが聞く人によくわかる「あったらいいな、こんなもの発表会」をしよう	話し手が話した内容について、質問・アドバイス・感想が言えない。
第1学年	きいて しらせよう	大事なことを意識して聞き、そこから質問を見つけることができない。

単元末の目指す姿

- ・聞く観点をもつことで、評価しながら聞くことができるようになる。
- ・話し手の意図をとらえ、自分の考えを明確にして、適切な助言ができるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫①

評価をしながら討論を聞くために、観点についてグループで話し合う活動を行う。

活動のねらい▶ 評価をしながら討論を聞くことができる。

ここがポイント

「聞くポイント」を明確にするために、次のような活動を行う。

- ① 討論会のモデルCDの内容を活字に表し、それを追いつながら、「主張と根拠にずれがない」「具体例を挙げている」など、上手な主張や質問のしかたを見つけて付箋に書く。
- ② 書いた付箋をグループで出し合って整理をする。
- ③ どんなことに気を付けて聞くとよいかを話し合い、「聞くポイント」としてまとめる。

授業の様子

質問に対する答えになっているか。

主張に矛盾点はないか。

主張と根拠にずれはないか。

根拠に説得力があるか。

具体例を挙げているか。

情報収集ができていますか。

(期待される児童の姿)

討論会でのそれぞれの立場(肯定側、否定側、聞く側)の主張や質問について、観点を明確にすることにより、評価をしながら聞くことができるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫②

★主体的な学びにつながる実践

討論を聞き、どのように助言をすればよいかを考える活動を取り入れる。

活動のねらい▶ 相手の立場に合わせながら助言をすることができる。

ここがポイント

どのように助言をすればよいかをとらえるために、次のような活動を行う。

- ① グループでミニ討論を行い、お互いに助言を試みる。
- ② 助言をするときには、どのようなことに気を付けてよいかを話し合う。
- ③ 「助言をするときのポイント」として掲示する。

授業の様子

例えばこんなふうになれば…というような改善策まで助言をしてもらえると、課題を解決するときに役に立つよね。

悪い点だけでなく、良い点も認めて助言をしてくれたので、受け入れやすい気持ちになったよ。

助言が、主張の仕方に偏っていたので、内容や構成についても助言ができるようにするといいな。

(期待される児童の姿)

自分達で「聞くポイント」や「助言をするときのポイント」を考えることで、相手の立場に合わせながら、見通しをもって討論を行ったり助言を行ったりすることができ、主体的な学びにつながる。

書くこと①

第6学年

考えたことの中から書くことを決め、構成全体の効果を考えて書くこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

自分の意見が深められなかったり、自分の考えを支える効果的な根拠が挙げられなかったりしている。

意見を支える適切な根拠になっていない上、お別れ遠足の意義も踏まえられていない。

終わり
適当に考えた。お別れ遠足の思い出をつくるためにUSJは最適なように、最後に

中
また、グループ行動をしても車などの心配もなく安全で安心である。入場者数を記録するほど人気がある。また、グループ行動をしても車などの心配もなく安全で安心である。

はじめ
お別れ遠足にはUSJに行くのがよいと思う。なぜかと言うと、USJは、東京ディズニーランドを抜く

意見として行き先だけを述べるに留まっており、その場所ではなくてはいけないという想いやお別れ遠足の意義が書かれていない。

実践の概要

単元名

説得力のある意見文を書いて、お別れ遠足の思い出を作ろう

『未来がよりよくなるために』光村図書

目標 お別れ遠足への自分の意見が説得力をもつように、具体例や資料を集め、文章全体の効果を考えることができる。

- 内容**
- よりよいお別れ遠足を考える。
 - 説得力のある根拠や構成について助言し合う。
 - 効果的な構成を考えて意見文を書く。
 - 意見文を読み合い、お別れ遠足をどうするか決める。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	説得力のある意見文を書いて、お別れ遠足の思い出を作ろう	自分の意見が深められなかったり、自分の考えを支える効果的な根拠が挙げられなかったりしている。
第5学年	提案書を書いて、班のつどいを『超変革』!	自分の考えを、他の視点から見直したり、他の条件などと関係付けたりすることができない。
第4学年	3年生にクラブのよさを伝えよう	自分の考えを明確にして、伝えたいことを写真や絵と関係付けた紹介文を書けていない。
第3学年	ぼうけん物語の作者になって出版記念会を開こう	内容的なつながりを考えて書きたいことを決めることができない。
第2学年	かんさつ名人になろう	観察したことから書くことを選んだり、簡単な構成で文章を書いたりすることができない。
第1学年	しらせたいなカードで、鈴原小学校の『いきもの』をしらせよう	メモしたことをもとにして、観点ごとにまとまりのある文章に書き表せない。

単元末の目指す姿

- 自分の意見についての考えを俯瞰的に書くことで、自分の考えをさらに深めることができるようになる。
- 意見や根拠、その考えまでを表にしたものをもとに、グループ交流をすることで、表現の意図まで考えることができるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

自分の意見とその根拠についての自分の考えを表にまとめさせる。

活動のねらい ▶ 自分の意見や根拠を客観的に見つめ直し、修正の視点を理解する。

ここがポイント

- 意見文につながる自分の考えを付箋に書き、ワークシートの上段に貼る。
 - 上段の付箋の内容を客観的に見直して、気付いたことや考えたことなどを付箋に書き、ワークシートの下段に貼る。
- 自分の考えを一步引いて見つめ直させることで、自分の考えを深めさせることができる。

授業の様子



自分の意見を別の視点で見直すことで、言いたいことがはっきりするな。

根拠についての自分の考えを書くことで、意見と根拠の関係が見えて、理由付けすることができるなあ。

上段の付箋についての考え

(期待される児童の姿)

上段には、付箋に自分の意見や根拠を書いていく。下段には、それぞれの付箋についての自分の考えを書く。そうすることで、客観的に見つめ直したり、自分の考えをより明確にしたりすることができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

意見や根拠をまとめた構成表をもとにグループで助言し合う活動を行う。

活動のねらい ▶ 根拠の妥当性や理由付けについて、視点を明確にして助言し合うことができる。

ここがポイント

意見や根拠が書かれた上段の付箋だけではなく、それぞれの付箋についての考えが書かれた下段の付箋まで見て助言し合うようにさせる。そうすることで、書き手の意図や考えを尊重した交流をさせることができる。

授業の様子



遊園地に行きたいのは、人気があるからというだけではなく、いろんな立場の人に楽しんでもらいたいという思いがあるんだね。

(期待される児童の姿)

意見や根拠に対する考えまでを載せた構成表をもとに助言し合うことで、相手の意図や考えを踏まえて助言できる。

書くこと②

第6学年

適切な資料を引用し、文章の構成を工夫して自分の考えを書くこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

資料を正確に読み取っているが、「この資料が本文に述べられている要旨につながるものではない」という判断ができていない。

	島内	島外	総数
平成19年	31	2	33
平成20年	26	2	28
平成21年	31	2	33
平成22年	26	8	34
平成23年	27	13	40

[発問]
この資料の引用が本文の要旨を説明するのに適しているか。



実践の概要

単元名 町の未来をえがこう
『町の幸福論-コミュニティデザインを考える』東京書籍

目標 本文の内容と提示された資料が適切かどうかを考え、教材文の写真に込められた筆者の意図を読み取り、自分の考えが伝わるように書きまとめることができる。

- 内容
- ・「町の幸福論」の文章構成の工夫や資料の適切さを読み取る。
 - ・資料を集め、必要な情報を用いて、「加古川町」の未来について自分の考えが伝わるように書く。
 - ・町づくりについてプレゼンテーションを行い、交流・検討し合う。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学年	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	町の未来をえがこう	資料を正確に読み取っているが、「この資料が本文に述べられている要旨につながるものではない」という判断ができていない。
第5学年	和の文化について調べよう	自分の考えを明確に伝えるために文章構成を考えているが、効果的ではない。
第4学年	わたしたちの生活とロボットについて考えよう	様々な角度から考え、内容を整理して書くことや接続語や指示語、文末表現を効果的に使って書くことができない。
第3学年	要約名人になってもうどう犬リフレットを作ろう	中心となる言葉や文を見つけて要約することができず、長い文を書き写してしまう。
第2学年	どうぶつのひみつをみんなでさがろう	見つけた大事な言葉を使って、順序よく書きまとめたり、不要な言葉を省いたりすることができていない。
第1学年	サラダでげんきおしゃべりレシピをつくろう!	大事な言葉を見つけ、順序に注意して正しく文や文章を書くことが難しい。

単元末の目指す姿

- ・資料を引用する際に、自分の伝えたい内容を説明するのに適切かどうかを考えるようになる。
- ・文章を書くときに、効果的な構成になっているかを意識して書くようになる。

書くこと③

自分の考えが効果的に伝わるように、理由を明確にして根拠を挙げて書くこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

自分の主張に沿った理由とその理由につながる根拠が書けない。

自分の主張に沿った理由は述べているが、その理由「人の勝手な行動で命を奪われるのはおかしいことへの根拠ではなく、自分の思いを述べている。」

私、犬の殺処分は反対です。それは、人の勝手な行動で命を奪われるのはおかしいと思うからです。例えば、私の家の犬はともかわいいのに、殺されるなんてかわいそうです。

理由

実践の概要

単元名

自分の投書を新聞に投稿しよう

『新聞の投書を読み比べよう』東京書籍

目標 自分の主張が伝わるように、理由を明確にして根拠を挙げて投書を書く。

- 内容
- 理由とその根拠を明確にして自分の主張を投書するという単元の見通しをもつ。
 - 自分の主張に沿った理由とその根拠の挙げ方、書き方など読み手を説得するための工夫を学ぶ。
 - 主張を明確にし、理由とその根拠を挙げて投書を書く。
 - 投書を交流し、新聞社へ送り、単元を振り返る。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容（単元名）		つまずきの実態
第6学年	自分の投書を新聞に投稿しよう	自分の主張に沿った理由とその理由につながる根拠が書けない。
第5学年	「和の魅力リーフレット」を作ろう	目的に応じた小見出しを作り、その内容を説明する文章を自分の考えと区別して適切な資料を入れながら書けない。
第4学年	広告大賞を目指して、夢の〇〇商品の広告を作ろう	2つの文章を読み取り、それぞれの意図や目的による違いが挙げられない。
第3学年	理由がわかるように書こう	自分の考えたこととその理由を整理し、順序立てて書くことができない。
第2学年	絵を見てお話を作ろう	場面がつながるように、伝えたい事柄を決められない。
第1学年	のりものかるたをつくろう	調べたことから、学習のめあて(役目・つくり・できることを意識して書く)に則した伝えたい内容が決められない。

単元末の目指す姿

- 自分の主張に適した理由や根拠になっているか確認しながら文章を書くようになる。
- 理由と根拠のつながりを意識し、適切な接続詞を使って自分の投書を書くことができるようになる。

第6学年

読むこと①

登場人物の相互関係や心情、場面についての変化を読み、本や文章を読んで考えたことについて、自分の考えを広げたり深めたりすること

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

作者の思いを読み取るだけになって、自分の経験や思いを関連付けて、読みを深めることができない。

宮沢賢治さんが「やまなし」で伝えなかったことは、苦しみの中、つらい中にも楽しみはあることだと思う。なぜなら、五月ではかわせみがいきなり飛びこんできて怖い思いをしたけど、十二月ではやまなしが落ちてきて怖い気持ちから幸せな気持ちになっている。だから、五月で苦しい思いをしたけど、十二月では幸せになっているので、苦しい中にも幸せがあるという思いを「やまなし」で伝えなかったと思います。

- ○ 作者の思いについて、読み取りまとめることはできている。
△ 自分の経験や考えの関連付けがなく、主体的に読み深めていない。

実践の概要

単元名

自分の感じたことを、朗読で表現しよう

『やまなし』 光村図書

目標 宮沢賢治の生き方や考え方を知り、「やまなし」に込められた思いを読み取るとともに、宮沢賢治の比喻や反復などの表現の工夫や対比をとらえ、伝えたいことを読み取り、自分の考えをまとめて朗読で表現することができる。

内容

- 宮沢賢治の生き方や考え方を知る。
- 「五月」と「十二月」の場面を読み、場面を比べながら「やまなし」の役割を考える。
- 作者が「やまなし」で伝えなかったことを考える。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容（単元名）	つまずきの実態
第6学年	自分の感じたことを、朗読で表現しよう	作者の思いを読み取るだけになって、自分の経験や思いを関連付けて、読みを深めることができない。
第5学年	説明の仕方の工夫を見つけ、話し合おう	<ul style="list-style-type: none"> 本文をもとに文章の構成・構造をとらえられない。 自分の考えを述べるときに、自分の知識や経験と結び付けながら説明することができない。
第4学年	段落どうしの関係をとらえ、説明の仕方について考えよう	段落相互の関係を考えたり、叙述を自分の経験や知識と関係付けて主体的に読み深めたりできない。
第3学年	心にのこったことを、自分の言葉で表そう	伝えたいことを条件に合わせて、まとめて書くことができない。
第2学年	知っていることとつなげて読もう	長文になると、「問い」に対する「答え」の部分が的確に見分けられない。
第1学年	おはなしのおみせやさんごっこをしよう	自分の経験と結び付けて想像豊かに読み、自分の考えをまとめたり広げたりできない。

単元末の目指す姿

- 作者の考え方や作品の内容を照らし合わせて考えることができるようになる。
- 作者が伝えたいことを読み取ることができると、自分の経験や思いを関連付けてまとめることができるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

それぞれの場面に題名を付ける活動を取り入れる。

活動のねらい ▶ 描写に込められた筆者の思いを考えることができ、読みの深まりにつながる。

ここがポイント

- 作品に込められた宮沢賢治の思いを読み取るために、作者について調べ学習をしたり、資料(「イーハトーヴの夢」)をしっかりと読み込んだりして、作者の生き方や考え方を知る活動を行う。
- 題名に込めた自分の考えや、その根拠も示すように指示する。

授業の様子



五月の苦しさというのは、妹トシの死や災害にあった賢治さんの苦しい経験で、十二月は農作物の収穫のような楽しみを書き表している。人生を表している。

五月と十二月を対比させていて、十二月の場面でやまなしが落ちてきて、かへの親子が希望をもつことができました。賢治さんは、「苦しみの中にも楽しみがある」という考えをこの作品に込めていると思います。

(期待される児童の姿)

登場人物の気持ちや情景の変化をとらえるだけでなく、作者の思いを考えた意見が出るようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

作品から読み取ったことと自分の考えを区別して、まとめさせる。

活動のねらい ▶ 作品の感想だけでなく、自分の経験や思いも含めたまとめをすることができる。

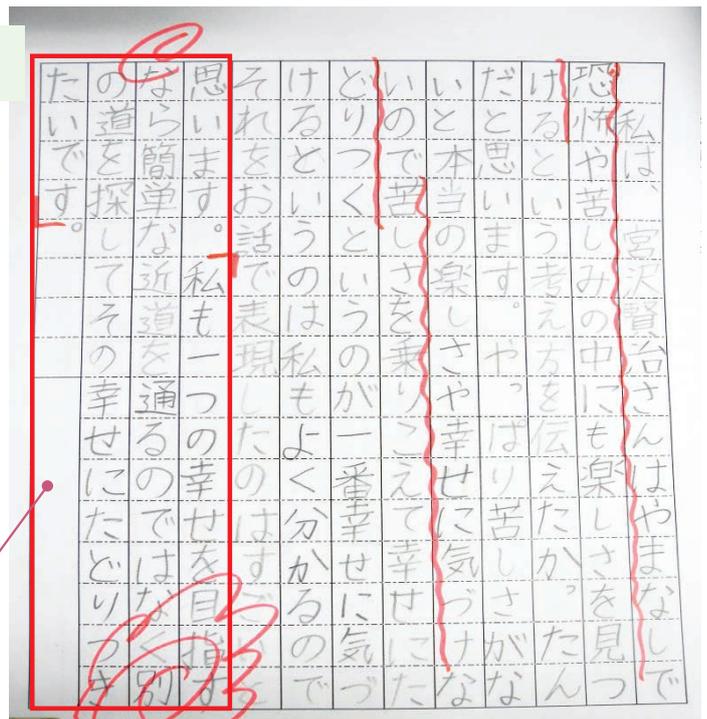
ワークシート

ここがポイント

ワークシートでは、文字数を200字以内に設定して、「作者が作品に込めた思い」と「自分の経験や考え」を区別して書かせるようにする。

(期待される児童の姿)

作品に対する感想で終わらずに、作者の思いから、自分に返って、学習のまとめをすることができるようになる。また、自分の経験や考えと関連付けて、書くことができる。



読むこと②

第6学年

複数の観点から作品を読み深め、自分の考えをまとめること

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

登場人物の相互関係や場面についての描写をとらえることができず、主題にせまる考えをもつことができない。

考えの根拠が示されていない。

谷川の生きものは、川の自然現象に負けないで生きていたいのだと思う。

かにも人間と同じ生物だと伝えたいと思う。なぜなら、かに目線の物語だから。

クラムボンの話をしているか、の兄弟が楽しそう、あわの大きさを比べている時も楽しそうだから、この文章は楽しい話だと思う。

印象に残った部分についてのみの反応であり、作品全体から読み取ったことではない。

作品の内容についての読み取りがない。

実践の概要

単元名

宮沢賢治が創り出す世界を味わおう

『やまなし』光村図書

目標 複数の読みの観点から、作品を読み深めることができる。

内容 ・既習の読みの観点を振り返り、全体で共有する。

・観点を意識しながら、「五月」と「十二月」を読み、作品に込められた作者の思いについて、自分の考えをまとめる。

・資料「イーハトーヴの夢」を読み、作者の願いを知る。 ・他の作品へと読み広げる。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容（単元名）		つまずきの実態
第6学年	宮沢賢治が創り出す世界を味わおう	登場人物の相互関係や場面についての描写をとらえることができず、主題にせまる考えをもつことができない。
第5学年	すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう	一方的なものの見方から抜け出せず、主題にせまる感想をもつことができない。
第4学年	読んで考えたことを話し合おう	登場人物の姿・様子について、文中の一部から表面的にしかとらえられない。
第3学年	場所の移り変わりをとらえて感想をまとめよう	中心人物の様子を表す言葉から、中心人物の置かれている状況を想像して、気持ちを書くことができない。
第2学年	音読げきをしよう	叙述に込められている登場人物の気持ちの変化を想像することができない。
第1学年	音読発表会をしよう	場面の様子や登場人物の言動を表す言葉を見つけ、想像を広げることができない。

単元末の目指す姿

- ・読みの観点を整理・共有することで、叙述を根拠にしながら、一方的な読み方ではなく多面的に作品を読み進めることができるようになる。
- ・これまでの学びから得た読みの観点を再認識し、他の作品を読む際にも使うことができるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

★深い学びにつながる実践

作品を読み深めるためには、どのような観点が大切であったかを想起・整理させる。

活動のねらい▶ 共有した観点を指標にして、個々に読み進めていくことができる。

ここがポイント

“物語を深く読むために大切だと思うこと”を問いかけ、出てきた意見を全体で、集約・整理をする。そして、整理された観点を、自分が読み進めるための手助けになるものとして、以降の一人学習で活用できるようにする。

授業の様子



前に“起承転結”を考えたことがあったな。

“情景”も気持ちを表しているから大切だったね。

今回は、場面の“対比”が使えるかな。

“事件”の前後で、中心人物が大きく変わっていたよ。

(期待される児童の姿)

既習の「読みの観点」をグループごとに振り返り、全体で交流・確認し、読み深めるために必要な観点を整理することで、見通しをもった課題解決を図ることができ、深い学びにつなげることができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

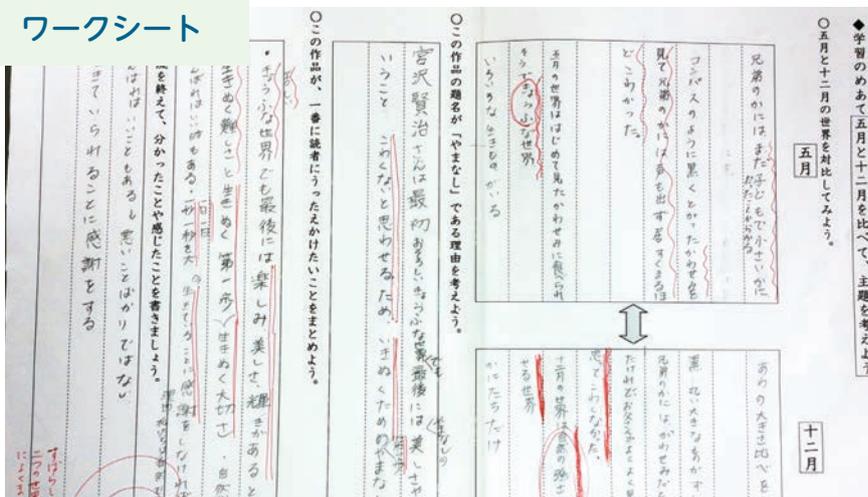
観点ごとに読み取りを整理して、ワークシートにまとめさせる。

活動のねらい▶ 整理することで、全体交流の際に、観点ごとの読み取りを関係付けやすくなる。

ここがポイント

これまで培ってきた読みの視点を活用しながら、“題名”“対比”“人物の行動変化”などの観点を整理したワークシートを作成し、個々に考えをまとめる。そして、複数の観点到共通して表れていることから、主題にせまっていく。全体交流の中では、自分の考えを改めていく過程がわかるように、書き加えていくようにする。そうすることで、自分の考えの根拠を自分で振り返ることができるようにする。

ワークシート



(期待される児童の姿)

観点ごとに考えをまとめるため、何に注目すればよいのかが明確になる。また、交流の際には、ある観点で見られることが他の観点でも見られるといった関係性をとらえることができる。